

第34回 福島県建築文化賞 各作品賞 講評

正賞（1作品）

○ あぶくま更生園【田村市】

知的障がいを持つ人々が居住する施設として、入居者が安心して過ごせるよう、様々な空間要素を巧みに組み合わせ、ユニットに分節しながら視覚的連続性のある明るくゆとりのある生活空間が実現されている。入居者が自分の居場所を確保し、安心感を持ってパブリック・リビングに集まって過ごしている様子が見られる。

各ユニットは、緩やかなスカイラインをつくる傾斜屋根をもち、木造の架構がそのまま内部に表れて開放的な空間となっている。折り重なった屋根の隙間から光が入り、木製天井と地元の田村杉の柱や壁が内部空間に温かみを与えている。

従来の障がい者の施設のイメージから脱し、新たな可能性を示した作品として高く評価できる。

準賞（1作品）

○ 宮畑遺跡史跡公園 体験学習施設（じょいもん）【福島市】

史跡公園と建築物が一体になった配置計画で、2階展望デッキからは公園越しに雄大な吾妻連峰が眺望でき、かつてここを居住地に選んだ縄文人と心がつながる思いにさせられる。

建物は木製天井の架構が印象的で、エントランスホールの縄文土器をモチーフにした逆6角錐の木造立体トラス、多目的ホールの不定形の木製格子梁表しなど、施工者の工夫と努力によって施工難度の高さを克服し、実現されている。随所に様々なデザイン・ボキャブラリーが散りばめられ、建物自体が来訪者に縄文時代へのイメージを膨らませる仕掛けとなっている。

この建築によって、宮畑遺跡史跡がこれまで以上に知られ、来訪者が増えることが期待される。

優秀賞（3作品）

○ 国見町庁舎【国見町】

鉄骨と集成材のハイブリッド部材が庁舎の中央部に大きく展開している。町民が最もよく訪れるエリアにこれを多用することにより、木造のような落ち着いた空間づくりに成功している。外観の木製ルーバーと木を表したリフレッシュ・テラスとのコンビネーションが、周囲の新しい景観要素となっている。

構造材の他にも床・テラスに県産木材、家具には国見町産木材を使用し、イベント等にも使うことのできる中央吹抜にはアカマツ広場を設けるなど、コンパクトながら温かみを感じられる庁舎となっており、木材の活用の効果をよく示している。

○ 北会津こどもの村幼保園【会津若松市】

美しい山並みと田園風景に囲まれた雄大な眺望を取り入れ、子供たちが毎日をのびのびと過ごすための様々な工夫が凝らされている。色とりどりの屋根を持つ保育室が周囲に配置された円形の大空間の中で、多くの園児が遊び、交流することができ、大きな家の中にいるような安心感とやすらぎを創出している。

内部、外部において一つの集落が表現され、地域と共存する認定こども園であることを感じさせる作品となっている。

○ BLUE MUG COFFEE【いわき市】

住宅や商店が建ち並ぶ道路のカーブ沿いに建ち、緑のテラスを構えるシンプルなデザインが街並みを変えるアクセントとして機能している。内部は、従業員や地域の人々による手作り感あふれる装飾と、建築主好みの大谷石や木材を利用した内装がよく調和し、居心地よい空間となっている。

建築に夢を求め、企業姿勢をそこに込めようとした建築主が、その思いを託せる設計者を探し求めるところから始まり、設計者がその思いを真に受け止めて、細部に至るまでアイデアを重ねた結晶として、建築文化に寄せる理解と工夫がここに凝縮されている。

特別部門賞（3作品）

○ 曙ブレーキ福島製造株式会社 桃苑寮【桑折町】

働きながら学校に通い学ぶ勤労学生のための女子寮である。女性の社会進出を支援する企業の継続的な姿勢にまず敬意を表したい。

女性による計画・設計・施工チームで相互理解と意見交換が重ねられ、女性たちが共に生活し、学び、憩う場が創り上げられている。

外周部にスリット窓を持つ居室群が配置され、内部中央部のトップライトを有する明るい commonspace は、安心感のある居心地よい空間となっている。

○ 喜多方市立熊倉小学校体育館【喜多方市】

市が供給する地場産材を用い、地域の製材所、工務店、大工の力を結集して作り上げられている。木材の調達・製材・加工・組立等、様々な職種が活躍しており、地域振興に大いに貢献し、地域経済の循環や技術の継承にも寄与している。

木造ならではの架構の繰り返しを生かし、内外ともリズム感のある空間・形態が、工期・工費の限られた条件のもとで実現されている。

本建物は学校体育館であるが、地場産材を生かし、地域で生み出される公共施設が、地域の人々にとってより大きな喜びと誇りをもって集えるものとなることを示している。

○ 福島県買取型復興公営住宅 関船団地【いわき市】

コスト、工期が厳しく問われる買取型復興公営住宅の設計・建設において、県産材を生かし、鉄骨造と厚板集成材のハイブリッド構法により県内初の木表し3階建て公営住宅を実現したものである。避難者の居住の安定を最優先に、買取方式の整備手法や4か月という超短工期で完成させるための新工法の採用、県内初の WOOD.ALC の活用など、デザインビルドの特長が効果的に生かされている。設計者と施工者の協働の可能性や地域ビルダーの役割を総合的に示しており、地域に根差す企業としての姿勢は高く評価できる。

シンプルな外形であるが、木を表し、エントランス周りの金属のシャープなデザインと対比させることにより、木の温もりや和らぎの効果を感じさせる作品となっている。

復興賞（3作品）

○ 飯舘村災害公営住宅飯野町団地【福島市】

原子力災害による避難者向けとして、最初に完成した災害公営住宅であり、将来を担うのは子供という信念の下、子供のいる世帯を対象に計画されている。個々の生活を尊重しつつ、戸建てと長屋形式の住戸が広場を囲んで玄関を向けるコモンアクセスの配置を採り、住民同士の日常の交流やイベント開催等を促すと共に、周辺との交流も生まれやすいよう意図している。

広場中央の集会所は、放課後や休日の子供の過ごし場所、親子や世代間の交流の場となるよう、木造の架構の中に様々な場が用意されている。

村長を始め関係者全員の、村民を守り故郷への帰還を願う強い思いが、細部のデザインに至るまで随所に感じられる。さらに、居住する村民が帰村した後は、住み心地の良い環境を福島市に残すということまで視野に入れている点も特筆できる。

○ KIK' B【郡山市】

東日本大震災や空き店舗の発生により活気を失っていた駅前大通りの復興に向け、55mにわたる連続した街並みづくりを計画したものである。1階外装のレンガタイルと2階の木製ルーバーにより、レトロな雰囲気と親しみを感じさせる通りが生まれた。

テナント用スペースに加え、中央部に階段室を広げて設けた公共スペースや道行く人が足を止めるアルコーブなど、イベントや地域の活動となり、賑わいを創出するスペースが盛り込まれており、今後のまちづくりの取組みの起点となる役割が期待される。

○ 矢吹町営 中町第一災害公営住宅【矢吹町】

災害公営住宅を被災した旧奥州街道沿いの街並み復興の核として位置付け、道路向かいの地区センターと呼応して計画されていることは高く評価できる。交流を生み出しやすいように、2棟を「とおり庭」を挟んで配置すると共に、リビング・アクセスの住戸計画としている。多様な平面・断面の住戸の組合せと集成材厚板パネルによる軒下空間により、変化に富む群造形を生み出しており、集合住宅の新たな可能性を示している。

今後、住み手の工夫が加わり、この公営住宅が町の顔となって賑わいある街並みが形成されていくことが期待される。

（※優秀賞、特別部門賞、復興賞については順不同）